



産地に期待される試験研究にむけて

所長 尾上 重幸

暖地園芸センターは、創立以来、このかた、地域の皆様はじめ、大変多くの方々から多種多様なご支援、ご協力を受け、おかげをもちましてまもなく創立10周年を迎えようとしています。まだまだ、試験研究機関として十分に機能しているとは申しませんが、何とか試験研究機関らしくなってきました。試験研究の面でも、バイテク高度技術を利用した本県主要の園芸作物の優良品種の育成、本県特産花きの高品質生産技術開発等について、それなりの技術的評価をいただき、ようやく軌道に乗りはじめ、産地の皆様方に少しは成果をお返し出来るところまでに成長してきたのではないかと多少自負しているところであります。

また、近年、日高、西牟婁地域の日本一のウメ産地に原因不明の生育障害が発生し、ウメの生産が不安定をきたしており、当センターでも関係機関、産地の方々にご協力をいただきながら障害原因究明と障害回復対策試験に取り組んでいただいておりますが、現在までのところ残念ながら確たる原因究明に至るまでに達しておりません。そこで、さらに早くこの障害対策を究明するため、平成8年4月から総括研究員を中心とした直属5名の専任研究員によるウメ

対策プロジェクトチームを発足させました。

関係の機関、産地の皆様方のご支援ご協力をいただきながら、産地における現場実証対策を中心に障害回復と同時に原因究明試験にも取り組み、一日も早く、この障害究明、回復対策を講じ、日本一の梅栽培産地の生産安定につとめていきたいと考えております。また、それと平行しながら、本県梅の主要品種である南高を中心とする品種等の栽培、基本生理の解明、さらには、加工適性にすぐれ、しかも病害虫抵抗性を持つ優良品種の育成開発にも取組んでまいりたいと考えております。

さらにまた、平成8年度には県民の皆様にも本県農業の現状や新しい試験研究成果の紹介をしたり、生産者の皆様の技術研修の場や、多様な会議、その他、情報通信ネットワークのローカル拠点として、広く利用していただけるような「ふれあい多目的研修センター」の建設にも取り組んでまいりたいと考えております。

これからも、一層広く皆様方のご協力をいただきながら、微力ではありますが、職員一同一丸となって、本県農業の振興にがんばってまいりたいと考えております。どうかよろしくお願い申し上げます。

1996. 5. 20 第8号 目次

産地に期待される試験研究にむけて	(尾上 重幸)	1
研究の成果		
果樹 ウメ黒星病に対する品種別発病について	(夏見 兼生)	2
花き 宿根カスミノウ茎頂組織の超低温保存法	(花田 裕美)	3
トピックス		
〈講演趣旨〉「最近の植物バイオテクノロジーにおける問題点」		
農業生物資源研究所 細胞育種部長 大澤 勝次		4～5
現地の動き		
育苗センターの有効利用で花壇苗の産地づくり	(和歌山地域農業改良普及センター)	6